



平成 22 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
 代 表 者 名 取締役社長 松 井 政 彦
 (J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 取 締 役 中 村 元 治
 電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 3 月期（平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日）の第 2 四半期累計期間の業績予想について、平成 22 年 5 月 14 日付当社「平成 22 年 3 月期決算短信」にて発表いたしました連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 23 年 3 月期 連結業績予想の修正等

①第 2 四半期累計期間（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想 (A)	3,543	△ 146	△ 65	△ 86
今回修正 (B)	3,447	△ 418	△ 478	△ 505
増減額 (B-A)	△ 96	△ 272	△ 413	△ 419
増減率	△ 2.7%	—	—	—

②修正理由

当第 2 四半期累計期間の商品市況は、世界的に貴金属価格が上昇基調を維持しましたが、売買高は総じて低調に推移し、全国商品市場売買高は 29,740 千枚（前年同期比 10.6%減）となるなど、市場の流動性が低迷している状況が続いております。

このような環境の中ではありましたが、当社グループの中核事業である商品先物取引事業の受取手数料は、主力である貴金属市場が、前年に比べて増加したこともあり、2,927 百万円（前年同期比 17.7%増）となる見込みであります。しかしながら、売買損益は、貴金属市場におけるディーリングでの利益などはありましたが、169 百万円の利益（前年同期比 5.1%減）にとどまる見込みであります。

また、証券取引事業につきましては、関西地区での証券業務を廃止して、関東地区での再構築への移行期間であったため、受取手数料は、3 百万円（前年同期比 95.7%減）となる見込みであります。

このほか、為替証拠金取引事業では、売買損益が 53 百万円の利益（前年同期比 3.8%減）にとどまる見込みであります。

この結果、営業収益は 3,447 百万円となる見込みであり、前年同期比では 8.5%増となったものの、当初予想には届きませんでした。

また、営業費用につきましても、人件費の増加などにより、3,865 百万円（前年同期比 5.8%増）となる見込みであり、当初予想を上回る状況となりました。

これらの結果、連結営業損失は、418 百万円となる見込みであります。

これに加えて、円高が進行したこと等により、営業外費用に64百万円の為替差損を計上したこと(平成23年3月期第2四半期末時点での為替相場により算出したものであり、今後の為替相場により為替差損益の金額は変動します。)や、投融資先の財政状態および担保評価を厳格に精査した結果、財務の健全化の観点から、貸倒引当金繰入額105百万円を計上したこと等により、連結経常損失は478百万円となり、連結純損失は505百万円となる見込みであります。

なお、通期の業績予想につきましては、各市場の相場動向など不確定な点がありますが、当社グループの中核事業である商品先物取引事業が好調に推移していることや他の事業についても収益の改善が見込まれることから、前回発表しました業績予想に修正は行ないません。

業績予想の修正が必要になった場合は、速やかに開示させていただきます。

また、個別業績予想につきましては、概ね予想通り推移しており、修正はございません。

③ご参考：前期の実績（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期累計期間 (H21/4～H21/9)	3,176	△ 476	△ 449	△ 280
通 期(H21/4～H22/3)	6,527	△ 925	△ 958	△ 719

2. その他

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、市場環境の変化など様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上